

予算審議を終えて

衆議院は2月29日、与野党の合意のないままに自公両党が予算ならびに関連税制などの法案の強行採決を行い、国会は週明けからストップしたままです。

私は副議長という職責上、本会議には出席して反対しました。

今回の審議を通して、道路特定財源について多くの問題点が明らかになったといえるでしょう。それは5兆4000億円もする来年度の道路予算が、国交省の自由判断に基づいて合理的根拠がかなり疑わしい使い方をされているという点です。

今までの道路特定財源によって車両の購入、運動用具、ミュージカル(95件5億7000万円)などなど、次々と明らかになりました。

道路整備特別会計では毎年1兆円ものお金が使われずに繰り越しになっている事実も判明しました。

また、今後10年間で59兆円という根拠も不明確です。(59兆円のお金は国民1人50万円の負担、4人家族で200万円の負担)

なかには「開かずの踏切」対策は過去5年間で40ヶ所しか出来なかったものを、10年間で1400ヶ所も見積もるなど、いい加減としか言いようがありません。

民主党は2月27日に次のような道路政策大綱を発表しました。

暫定税率がゼロになると

ガソリン税	25.1円/L	下がります
軽油引取税	17.1円/L	下がります

地方の財源を確保し、また一般財源にすることで必要なお金を使うことが出来るようになります。

2008.2.27

民主党

民主党の道路政策大綱(ポイント)

特定財源廃止(法案提出予定)

暫定税率期限切れ(法案提出予定)

地方の財源確保(法案提出予定)

臨時交付金は法律改正(揮発油税の1/4 1/2)で現行水準確保

国から地方への補助金は現状水準維持

国直轄事業の地方負担金廃止で地方特定財源減収分はカバー

国・地方の道路整備

今後は、道路整備の主体を地方に移し、そのために必要な権限を移譲し、財源を確保する。

国の道路整備は、地方と役割分担を明確にした上で、必要な道路整備は着実に実施する。

道路建設ルールの抜本見直し

国幹会議のあり方の抜本的見直し

道路建設に関する責任の明確化等

予算審議中にイージス艦「あたご」による漁船「清徳丸」との衝突事故が発生しました。詳細はまだ明らかにされていませんが、「あたご」に責任があるのは明らかです。

「そのけ、そのけ」と漁船が避けるのは当然とばかりに自動操舵で前進。見習いもレーダー員も 8 人もいながら何をしていたのでしょうか。本当にけしからん事故で、怒りでいっぱいです。

国会がきちんと真相を解明しなければなりません。その責任を果たしていきたいと思います。

行方不明の親子。息子さんは父を助けようと高校を中退して漁師になり、ホームレスに魚を届けるなどやさしい気持ちをもった若者です。

また、捜索し励まし助けあう漁師の仲間。組合長さんも静かに落ちついて、しっかりと意見を述べておられました。それに比べて防衛省の大臣、事務次官の発言、なんと情けないことでしょうか。

イージス艦とはイージスシステムを搭載した護衛艦のことで、1 隻 1400 億円です。日本は 5 隻保有し、もう 1 隻取得の予定です。

イージスシステムとは目標の搜索、探知から情報処理・攻撃までを高性能レーダー・コンピューターなどにより自動処理する対空ミサイルシステムのことです。

アメリカ以外では日本とスペインだけが保有し、艦内のブラックボックスの機密をアメリカは明らかにしないため、欧州は保有を断っています。一時、イージス艦にはアメリカ人が乗って管理していました。

自衛隊のなかで海上自衛隊が一番アメリカに追随し、アメリカとの連携・協力が一番強く、一体化しています。

将来、アメリカに飛んでいくミサイルも含めて、ミサイル防衛の名の下に、北海道奥尻島周辺にイージス艦を配置する構想なども議論されています。

以上